

令和4年度

研究紀要



第19号

京都市立中学校教育研究会研究主任部会

【目 次】

1. 目 次

2. 役員・組織・活動の記録

3. 各支部の活動報告

(1) 北・上京	牧野 嵩馬 (旭丘中)	(2) 中京	土田 眞司 (北野中)
(3) 下京・南・東山	元氏 宏輔 (開晴小中)	(4) 左京	森川 美保 (近衛中)
(5) 山科・醍醐	稲井 浩子 (山科中)	(6) 右京	所 香織 (西京極中)
(7) 西京	高 彩子 (洛西中)	(8) 伏見	小林 香陽子 (桃山中)

4. 第1回全市研究主任研修会 (4月12日) 【各校オンライン実施】

講義「校内研究の推進と充実を図るために」 総合教育センター 主任指導主事 田中 圭
支部内協議・交流 「今年度の校内研究の構想と校内研究の活性化に向けて」

グループ協議

5. 第2回全市研究主任会 (10月24日) 【各校オンライン実施】

講演「縦と横でつむぐ義務教育カリキュラム」 講師：京都教育大学附属京都小中学校 野ヶ山 康弘

グループ協議

6. 第3回全市研究主任会 (1月30日) 【各校オンライン実施】

実践発表「校内研究を推進するための工夫・改善」 下京中学校 教諭 和田 正裕

グループ協議

- ### 7.
- (1) 会則
 - (2) 研究主任一覧表

【役員・組織・活動の記録】

事務局：小栗栖中学校

1. 役員及び組織

部会長	今津 敏一 (小栗栖中)		
副部会長	平井 真広 (西陵中)	副部会長	野村 昌孝 (開晴小中)
幹事長	中島 朋哉 (向島東中)	副幹事長	越田 友喜 (向島秀蓮小中)
庶務	和田 正裕 (下京中)	会計	元氏 宏輔 (開晴小中)
北・上京	牧野 嵩馬 (旭丘中)	中京	土田 眞司 (北野中)
下京・南・東山	元氏 宏輔 (開晴小中)	左京	森川 美保 (近衛中)
山科・醍醐	稲井 浩子 (山科中)	右京	所 香織 (西京極中)
西京	高 彩子 (洛西中)	伏見	小林 香陽子 (桃山中)
総合教育C	田中 圭 主任指導主事	学校指導課	堀田 和宏 首席指導主事
総合教育C	木下 要子 指導主事	学校指導課	安居 昌行 参与

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～

◇各支部の主任会が実りあるものになるようにするために

・全市研修のための企画 ・全市の情報収集→発信→各支部へ→各校へ ・テーマに関連した取組の情報交換

3. 活動の記録

4月 5日 (火) 役員会 (第1回)

4月12日 (火) 全市研究主任研修会 (第1回) 及び研究主任部会総会【オンライン開催】

○講義「校内研究の推進と充実を図るために」

総合教育センター 主任指導主事 田中 圭

○グループ協議

5月16日 (月) 第1回支部研究主任研修会

6月20日 (月) 第1回幹事会

6月27日 (月) 第2回支部研究主任研修会

9月12日 (月) 第3回支部研究主任研修会

9月26日 (月) 第2回幹事会

- 10月24日(月) 全市研究主任研修会(第2回) 研究会主催【オンライン開催】
 ○講義「縦と横でつむぐ義務教育カリキュラム」
 講師：京都教育大学附属京都小中学校 野ヶ山 康弘
 ○グループ協議
- 10月31日(月) 第4回支部研究主任研修会
 11月28日(月) 第5回支部研究主任研修会
- 12月5日(月) 第3回幹事会
- 1月23日(月) 第6回支部研究主任研修会
- 1月30日(月) 全市研究主任研修会(第3回) 研究会・総教C共催【オンライン開催】
 ○実践発表「校内研究を推進するための工夫・改善」
 京都市立下京中学校 教諭 和田 正裕
 ○グループ協議
- 2月13日(月) 第4回幹事会

4. 成果・および今後の課題

○全市研究主任会について(4月、10月、1月の3回ともオンラインでの実施)

実践報告では、小中9年間の視点から資質・能力を基盤としたカリキュラム・マネジメントの実践(附属京都小中学校)や、学校体制で研究を進めた実践(下京中学校)など、各校の研究主任の資質・能力の向上、また知見を広げる上で大変質の高い提案であった。また、グループ協議では、各校の取組を交流して自校の参考にしたり、研究主任として悩んでいることについて互いに助言しあえたりと、日頃の実践を振り返り、次の見通しを立てる有意義な時間にできた。課題として、講義の内容が難しかったという意見もあり、研究主任としての資質・能力の向上の必要性も見られた。またグループ協議の時間を昨年度よりも多く確保したが、今年度もその希望が多かったことから、次年度もグループ協議を積極的に取り入れたい。

○支部授業研修会について

コロナ禍での2年目の支部研となり、昨年度のオンライン実施での課題を改善しながら取り組んだ。支部によってコロナの状況により、オンライン、オンライン+集合、集合と実施方法は異なったため、それぞれの成果と課題が挙げられた。

<オンライン実施の場合>

成果は、集合時間を省略でき、録画映像であれば生徒のワークシートなどの評価材料を共有しやすい点であった。課題は学びの見取りにくさが一番に挙げられ、また配信する教員の確保やネット環境の問題などハード面があった。

<集合実施の場合>

成果は教室の雰囲気含め、学びの見取りやすさが挙げられる。事後協議においても従来の付箋を貼りながら協議がスムーズに進められた。課題は教室に参観教員が20名程度入る為かなりの密な状態であり、コロナ禍においての感染リスクがあった。

※実施方法以外で、学びの見取りに対する教員側の質の課題が見られる。次年度は事後(事前)の協議方法含め工夫が必要である。

○その他

<評価について>

各校3観点での評価の実践が進められ、各支部においても情報の共有が進められた。しかし、各観点の評価方法(とくに主体的に学習に取り組む態度)については、全市的な情報共有と見直し、更なる研究の推進が次年度以降も必要であると感じる。

<GIGAスクール構想について>

今年度、GIGA端末の活用について、生徒が自ら選択し主体的に活用することを目指すステージに入ったが、全市的に進捗状況を共有する場面が少なかった。支部研での提案も含めて端末の有効な活用の授業例を共有することは次年度も必要である。

【北・上京支部研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	小林 匡子	上京中
担当指導主事	西川 知也	総合教育センター
支部幹事	牧野 嵩馬	旭丘中

加茂川中	合田 萌乃	上京中	大塚 恵理
西賀茂中	有利 晃武	嘉楽中	須崎 徳馬
旭丘中	牧野 嵩馬	二条中	北川 晴香
衣笠中	佐藤 亮太	北総合支援	水野 雄希
烏丸中	木村 一平		

2. 研究テーマ

『協働的な学び』を意識した深い学びの実現

3. 今年度の活動内容

	実施日	内容
第1回	5月9日(月)	1. 研究主任総会の内容承認、幹事会の伝達 2. 本年度支部の研究テーマ決定、支部研究授業の実施方法等の検討 3. GIGA スクール構想の進捗状況交流、支部研究主任会 Teams 活用方法
第2回	6月27日(月)	1. 幹事会の伝達「必要書籍の検討」「ドリルパーク活用」 2. GIGA スクール構想の進捗状況交流 3. 本年度支部研究テーマに沿った支部研究授業実施方法等の決定
第3回	9月12日(月)	1. 夏季校内研修の情報交換 2. 授業研究会(9月7日実施分)の振り返り 3. 全国学力調査の結果の有効活用について
第4回	10月31日(月)	1. 今年度前半を振り返っての意見交流 2. 授業研究会の振り返り、来年度に向けた北上型ハイブリッドの改善検討 共通資料や指導案などの共有徹底 3. 全市研究主任会の意見交流、協働のイメージ共有、その他情報交換
第5回	11月28日(月)	1. 「目指す生徒像」に向かう校内研究のPDCAについて意見交流 2. 校内OJTの推進～主体的・対話的に深く学び続ける教職員集団の作り方 3. 研究紀要の概案共有 4. その他情報交換
第6回	1月23日(月)	1. 「目指す生徒像」に向かう校内研究のPDCAを通じた振り返り →一年間の子どもの姿の変容とそれを実現した研究主任の仕掛け 2. 子どもの資質・能力を高める指導と評価の一体化についての交流 3. ICT活用、副教材のデジタル化、デジタル教科書等についての交流

会場校：旭丘中学校

4. 今年度の総括

(1) 研究テーマに沿った研究

- ◇各校の研究になぞらえた「協働」の取組
 - ・深い対話、集団作り、表現力の育成
 - ・活発な意見交流になるよう取り組もうとした
- ◇子どものやる気を引き出すねらいや学び合いの取組
 - ・課題の工夫、評価方法を含めた見通しの共有
 - ・グループで対話的に学んでいく
- ◇「資質・能力」で各教科を繋いでいく取組
 - ・伝える力を向上させる校内研究の推進

(2) 支部授業研究会

- ◇今年度の振り返り
 - ・ネットの不具合や機能の限界のため、特に子どもの発言をうまく配信できず協議に支障があった
 - ・参観者の見取りによっては、グループごとで協議の質にばらつきが目立った
 - ・配信か否かによらず、子どもの学びを見とるということについて理解が不十分なケースがあった
 - ・授業者が北上支部の協議方法で充実感を持った部分として、授業者になりたくない一要因である、「授業者を評価する目線（経験則に偏重した恣意的な発言など）」に晒されることがなく、あくまでも子どもの学びを見とるという対等な立場で子どもを主語にした協議が進められたこと、協議後に子どもたちの学びのリアルがメモされた付箋が残ることが挙げられる
 - ・授業、授業参観の見方、協議の進め方、この協議を経て何を学べるのかなどのイメージを共有したい
- ◇来年度に向けて
 - ・具体的なマニュアルを発信する（集合 or 配信、子ども主体、時、人、会場、テーマ、共通資料など）
 - ・伝達の漏れをなくするために Teams や協議資料などを徹底して確認する
 - ・体育館に机、イスを持って行って感染予防を講じつつ、全参観者が授業に入る

(3) G I G A スクール構想推進

- ◇各校での研修や取組
 - ・持ち帰りの方法（使用ルールについて一枚ものを夏休み前に配布）
 - ・オンライン授業の対象者と方法
 - ・OneNote の活用（教務や学年の連絡に）
 - ・百問繚乱の活用状況
 - ・ICT を活用した「共有」（Teams やロイロノートでノート、板書、URL、画像、意見など）
 - ・小中9年間で連携して ICT 物品の整理をする（絵具セットみたいに ICT セットを小中校区で作る）
- ◇各校の抱えている困り
 - ・ICT 支援員との連携
 - ・授業改善への活用方法（どの場面で使うべきか、主体的に考えていけるように。）
 - ・デジタル教科書の活用（年度ごとにログが残らないのはデータ化のメリットを生かせていない）
 - ・ドリルパークを教師側が有効に活用させようとなっていない
 - ・副教材のデジタル化

(4) その他 活動全般について

- ・支部幹事については「1. 組織・役員」に沿って輪番とし、令和5年度は衣笠中。
ただし、研究主任一年目の先生が担当になる場合は、その限りではない。
- ・Teams で諸連絡、各校の研修資料等の共有を行うことで、より円滑な支部としての研究を進める。

【中京支部 研究主任会】

1. 役員及び組織

担当校長	藤井 泉	西ノ京中
担当指導主事	水谷 佳代	総合教育センター
支部幹事	土田 眞司	北野中

北野中	土田 眞司	朱雀中	合田 智栄
京都御池中	岡田 智代子	中京中	華井 崇博
松原中	右田 真衣	西ノ京中	加藤 葉
西京附属中	田中 正仁	洛風中	渡辺 千香子

◎幹事校の順番

4年度	北野中	5年度	朱雀中	6年度	中京中
7年度	松原中	8年度	西京附属中	9年度	洛風中
10年度	京都御池中	11年度	西ノ京中	12年度	北野中

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」

～『個別最適な学び』『協働的な学び』を意識して～

3. 活動の記録

回	月日(曜)	内容	会場校
第1回	5/16(月)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の組織の確認、自己紹介 研究主任会総会の内容の承認(藤井校長より) 支部研究テーマの提案・研究協議のもち方/視点 各校取組の情報交換 学習指導/評価計画など・GIGA スクール構想推進の取組 カリキュラム・マネジメント、その他諸連絡 (水谷主事より)年次研修への協力・SMART PORTAL の活用・「教科等主任研修会」を活用した校内研修・校内研究/研修に関する訪問指導 	西ノ京中学校
第2回	6/27(月)	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研究会(日程・研修内容の詳細・研究協議のもち方) 第一回幹事会の結果(主体的に学習に取り組む態度の評価・ミライシードの活用方法) 第2回全市研究主任会(学習指導要領の全面实施・研究主任の役割) 各校取組の情報交換 学習確認プログラム/全国学力学習状況調査の利用法・校内研究 (水谷主事より)学習指導案のひな形・教科等主任研修会の校内周知 校内夏季研修会(PDCA シート活用)・校内OJT 推進に向けて 	朱雀中学校
第3回	9/12(月)	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研究会(研修の実施方法・申し合わせ事項の確認など) 各校取組の情報交換 3観点での評価・GIGA スクール構想推進 (水谷主事より)夏季研修を振り返って・支部授業研修会・全国学力学習状況調査結果の有効活用・校内OJT の推進に向けて 	中京中学校
第4回	10/31(月)	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研究会の振り返り(ex 道徳)(成果と課題、来年度に向けて) 各校取組の情報交換 第2回研究主任会を受けて(第3回に向けて) (水谷主事より)前半の振り返り(PDCA シート追記)・支部授業研修会 全市研究主任会・年次研修進行状況 	松原中学校

第 5 回	11/28(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・支部授業研究会を終えて ・各校取組の情報交換 研究授業週間など ・第 3 回全市研究主任会に向けて 研究紀要への寄稿 ・(水谷主事より)PDCA シート記入と活用・ロイロノート 	西京附属 中学校
第 6 回	1/23(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・全市研究主任会に向けて (PDCA シートの記入と確認) ・中京支部・研究紀要の内容の確認 ・次年度の支部研究会に向けての確認 ・各校取組の情報交換 研究主任としての取組・来年度に向けて ・(水谷主事より)今年度を振り返って・『目指す生徒像』に向かう 校内研究の PDCA・全国学力学習状況調査の活用・来年度に向けて 	洛風中学校

4. 今年度の総括と次年度に向けて (令和 4 年度)

- ・支部研究授業において多くの教科で集合研修を実施できたことは実り大きく、各会場でお世話になった先生方に御礼申し上げます。また、ハイブリッドの運用は理論で考えるほどうまくいかないことが身に染みて分かり、その意味では大きな収穫であった。タブレット使用はだいぶ進んだが、ミライシードの活用は各先生方の授業との親和性に開きがあり、問題集代替とするのには難しい状況である。校内および配信研修で学ぶ内容には一定の学習効果はあったが、教育現場の実際に即した悩みとの乖離を埋めていくことが今後の課題と言える。
- ・評価に関する研修に講師を招いたが、講演だけでなく校内の授業を参観していただきアドバイスをいただけたことがよかった。主体的に学ぶ態度についての評価については、まだまだ研究・研修が必要だと感じている。学習確認プログラムについては、教科だけでなく学年会でも話題にあげることができた。学年の共通課題としてみんなで学力向上に取り組もうという姿勢になれたのは、大きな一歩であった。継続してできるようにしたい。学習確認プログラムや全国学力学習調査の分析で SP 表がついているが、十分活用できていない。表の見方がよくわからないので、研修の機会があればと思う。支部研究主任会の Teams は、ここ 2 年の足跡がわかるので、次年度も有効的に活用してはどうか。
- ・支部研究主任会の定例会では、同じ研究主任の立場で困っていることや悩みなどを相談したり、各校で実践していることを共有したり、情報交換ができる場として大変有難かった。また、支部授業研究会の際には、授業配信の方法や協議の進め方など協議を重ねたことで当日はスムーズに進行することができた。来年度も ICT をより効果的に使用していきたい。
- ・支部研では、多くの教科で集合研修が実施でき、リモートよりも実のある研修を行うことができた。校内でも、タブレットを活用した研究授業を行うことで、教員の GIGA への意識が高まってきている。しかし、今年度の研究テーマにある「個別最適な学び」については、多くの教員があいまいな理解であり、全体への研修なども行うことができなかった。研究テーマにおく以上、研修会を実施し、研究協議でもっと討論をしなければならないと思った。
- ・支部研を集合研修で行うことができて良かった。Teams を使った協議の仕方について事前に校内で研修を行ったことで、スムーズに進めることができた。「個別最適な学び」について、まだ理解が深まっていない部分があるので来年度も継続して考える必要がある。
- ・支部研をほとんどの教科が集合研修で行えたことがよかった。授業を実際に見て研究協議を行うことができた教科もあり、来年度も、コロナがある状況でもできることを増やしていき、実り多い支部研にしていけたらと思う。
自校では、カリキュラムマネジメントについての研修を行い、教科を超えて、学校として生徒に身につけさせたい資質・能力について交流し、その力の育成に向けて何ができるかを話し合うことができた。来年度は更にカリキュラムマネジメントを推進できるよう、研修計画をしっかりと立て、取り組んでいきたい。また、ICT 機器の活用についても、計画的かつ効果的な使用ができるよう、研修等を充実させていきたい。
- ・支部研では、本校が GIGA 端末を使えないため、様々な調整をして頂いたことに感謝しています。来年度以降も GIGA 端末が使えないため、同様の対処が必要です。ご迷惑をおかけします。
- ・今年度もコロナ禍が続く中で、ハイブリッドでの支部研を実施することが出来た。各校の実践例や GIGA 端末の活用方法等についての意見交流や情報交換をすることができ、自校での疑問の解消や新たな取組をはじめのきっかけになった。来年度は GIGA スクール構想の推進とともに評価に関する研究も進めていきたい。

【下京・南・東山支部 研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	野村 昌孝	開晴小中
担当指導主事	山野 斉道	総合教育センター
支部幹事	元氏 宏輔	開晴小中

下京中	和田 正裕	洛南中	福森 徹也
七条中	村井 達也	凌風小中	池上 暁
洛友中	中町 夕子	久世中	天良 亜由美
八条中	緒方 秀俊	開晴小中	元氏 宏輔
九条中	西条 貴英	東山泉小中	月城 正登

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」 ～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～

3. 今年度の活動

	日時	会場	活動内容
第1回	5月16日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの決定・今年度の活動計画 GIGA スクール構想の進捗状況や新学習指導要領実施に伴う評価評定の在り方に関する情報交換 支部授業研究授業について
第2回	6月27日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研修会の実施方法の確認と接続テスト 各校の研究部方針の共有 【研究方針に関する資料を持参】
第3回	9月12日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研修会ふりかえり 次年度の支部授業研修会の実施形態について GIGA スクール構想の進捗状況、家庭学習について
第4回	10月31日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> 全市研究主任会ふりかえり GIGA 端末活用のあり方とやり方の共有 各学校の具体的な実践例の共有
第5回	11月28日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究の PDCA シートに基づいた前半のふりかえりと今後の見通しについて 各学校の研究発表会の交流と意見交換 【PDCA サイクルシートに関する資料を持参】
第6回	1月23日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> 各校の研究の総括と情報交換 次年度に向けて

4. 今年度の総括

新学習指導要領の全面実施とタブレット端末導入に伴う GIGA スクール構想の急速な推進が求められた。そのため、前年度と今年度のそれぞれの各学校の進展状況を比較しながら「ICT の活用」と「3 観点による評価・評定」という 2 つの柱を中心に校内研修や授業改善の取組を中心に研究活動を行った。それらを支部研究主任会の場で交流することで、それぞれの学校への実践へとつなげる実りある交流を持つことができた。具体的には、GIGA 端末の操作方法といった議題から各教科で育成すべき資質能力を育成するための効果的な GIGA 端末を活用していくにはといった議題に転換した。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の見取りとして、各校の実践例をあげながら共有することができた。

新しい取組として、本支部では、研究発表会を複数校が実践しており、その成果と課題を共有することにより、研究主任会の活性化につながり、次年度の研究主題を考える上でもよい機会となった。

【左京支部研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	深尾 彰	高野中
担当指導主事	田中 圭	総合教育センター
担当指導主事	木下 要子	総合教育センター
支部幹事	森川 美保	近衛中

岡崎中	西田 拳大	修学院中	朝倉 将宏
高野中	高橋 俊行	洛北中	加納 由美
下鴨中	山崎 遥	大原小中	丸田 信宏
近衛中	森川 美保	花背小中	坂本 旭

支部幹事については輪番制で行う

21. 修学院→22. 近衛→23. 洛北→24. 高野→25. 花背→26. 下鴨→27. 大原→28. → 29. →30.

※ただし、次年度候補（洛北中）の研究主任が今年度から継続できなければ、1年飛ばす。次々年度以降の今年度と継続の研究主任の学校とする。

※今年度は本来の順番から変更している。（洛北 ⇄ 近衛）

2. 研究テーマ

「思考力・判断力・表現力を育成できる授業づくり」

～ 教科の見方・考え方を働かせて ～

3. 今年度の活動

	日時	会場	活動内容
第1回	5月16日（月）	下鴨中	・支部授業研修「研究テーマ」について
第2回	6月27日（月）	高野中	・支部授業研修会の形式の決定
第3回	9月12日（月）	高野中	・支部授業研修会に向けての共通理解 ・協議方法の決定
	9月21日（水）	近衛中	・校内授業研修および左京支部授業研修会競技 方法事前検討会
臨時	9月27日（火）	高野中	・支部授業研修会について
	10月26日（水）		・左京支部授業研修会
第4回	11月7日（月）	高野中	・支部授業研修会の反省と送り
第5回	11月28日（月）	高野中	・PDCAシートの交流 ・道徳の支部研修会について
第6回	2月6日（月）	高野中	・今年度の総括、次年度に向けて

4. 今年度の総括と次年度に向けて

1) 左京支部授業研修会をアップデート

- 事前協議を追加し、授業を見る前に視点を確認した。
- 研究協議から全体発表を省き、その分グループ協議を2回に増やした。

【成 果】

- ・新たに事前協議(5分)を入れることによって、協議の方向性や授業者のねらいを参観する方に示すことができた。
- ・昨年はリモートで開催したが、やはり集合研修のほうが生徒の学びの様子が直にわかるためよかったという意見が多かった。
- ・司会の先生のための「司会原稿」を統一したことで、協議の際に授業者への批判が少なく、生徒の活動に主眼を置いた協議にすることができた。
- ・3人という人数の協議がちょうどよかった。

【課 題】

- ・合計2回の協議をしたが、1回目は活発な協議にすることができたが、2回目の広がりがありみられなかった。
- ・視点が3つあり、協議でやることが盛りだくさんになってしまった。
- ・他のグループの話し合いの内容も知りたい。
- ・授業者に支部のテーマを十分理解してもらえたかどうかはわからない。
- ・主事にお話ししていただく時間と内容を事前に確認できていなかった。

【申送り】

- ① 「事前協議→授業→事後協議→指導主事より」の流れで行う。その際、主事にお話しいただく時間は20分程度必要。授業の良かった部分についても話していただくことを事前をお願いする。
- ② 司会原稿は統一したものを用意する。
- ③ 事後協議を2回行うなら、2回目の広がりが必要。例えば「改善点を話し合う」など。
- ④ できれば、授業者と司会者と記録者に向けた支部研事前説明会があるといい。

2) 主任会の持ち方と協議内容について

【成 果】

- ・左京支部研究主任会の Teams を立ち上げ、意見交流をする場を設けられた。
- ・各校での成果や困りを交流することで、自校の取り組みに反映させるきっかけをつかむことができた。
- ・数名の研究主任の先生に近衛中の研究授業に参加していただき、研修の様子や支部研の協議方法を検討する機会を持つことができた。

【課 題】

- ・前半は支部研のことに時間を多く割いたため、GIGA スクール構想のことや評価のこと、またカリキュラム・マネジメントについて話せる機会があまりとれなかった。

【次年度に向けて】

- ① 各校のカリキュラム・マネジメントをアップデートさせるための交流をするのはどうか。
- ② 研究主任どうしでの授業の実践交流や他校の研修会への参加をしてみるのはどうか。

【山科・醍醐支部 研究主任会】

1 組織・役員

担当校長	今津 敏一	小栗栖中
担当指導主事	湯浅 康次	総合教育センター
支部幹事	稲井 浩子	山科中

1	山科中	稲井 浩子	7	醍醐中	辰巳 昌宏
2	勸修中	木村 智里	8	春日丘中	岡田 俊哉
3	大宅中	石居 知予子	9	小栗栖中	吉田 幸平
4	安祥寺中	八藤 由之	10	栗陵中	亀井 隆次
5	音羽中	小西 俊伸	11	東総合中	郷 未央
6	花山中	出野 満里菜	※支部幹事は上記番号順による輪番制		

2 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～

3 今年度の活動内容

	日 時	会 場	活 動 内 容
第1回	5月16日(月)	小栗栖中	1 自己紹介 2 支部研究テーマについて 3 支部研の実施形態について 4 GIGA スクール構想の進捗状況について 5 情報交換・主事より(連絡)
第2回	6月27日(月)	栗陵中	1 支部研の実施形態について 2 GIGA スクール構想について 3 学習指導要領全面实施について 4 情報交換・主事より(連絡)
臨時	8月23日(火)	オンライン 会議(Teams)	1 支部研究授業の確認 2 情報交換・主事より(連絡)
第3回	9月12日(月)	勸修中	1 支部研について 2 夏季休業中の取組について 3 情報交換・主事より(連絡)
第4回	10月31日(月)	大宅中	1 来年度の支部研、実施形態などについて 2 人権学習について 3 GIGA 端末について情報交換 4 情報交換・主事より(連絡)
第5回	11月28日(月)	安祥寺中	1 前期のふり返りと後期の取組について 2 次年度の支部研の方向性について 3 情報交換・主事より(連絡)
第6回	1月23日(月)	音羽中	1 各校の学力向上の取組について 2 全市研究主任会紀要原稿の確認 3 情報交換・主事より(連絡)

4 今年度の総括と来年度に向けて（アンケートより）

《主任会の協議内容について》

【成 果】

- ・各学校の状況が分かり、自分の学校の方針が立てやすい状況を作れました。また、GIGA などの全学校が方針を決めあぐねているようなものでは他校の良いところをまねできる機会になりました。
- ・支部研究授業の在り方について、試行錯誤しながらもできる限りの最善の方法を導くことができました。また、各校の取組を知ることができ、自校の取組に生かすことができました。
- ・GIGA 端末の各校の取組など情報共有ができ、それぞれの学校での取り組みを参考に自校にも還元することができました。
- ・オンラインでの開催も含めて定期的な会を開くことができた。活発な会議で、他校の現状や取組のようすがわかり参考にすることができました。
- ・各校の研究の推進方法を共有することで、自校でのグループ協議や、グループでの協働的な活動を推進することにつながるすることができました。
- ・各校の取り組みや、資料等を共有できているところ。また、Teams などでの連携を進めることができました。
- ・世の中の情勢に即した学習活動（GIGA 推進）への移行が上手くいっていると思います。ただし、そのメリット、デメリットも鑑みた計画・構想の上、よりよい形の授業が求められるのだと認識できました。
- ・各校の実践を共有し、自校の研究や運営を見直すことができました。
- ・議題の内容以外にもざっくばらんに話をすることができました。

【課 題】

- ・評価評定についての十分な意見交換ができなかった。ほかの議題に時間を費やしすぎていたのかもと思います。
- ・支部研究授業については、コロナ対策という点でギリギリまで準備等が大変でした。実技教科など他支部も参加する場合や、コロナによる人数制限など管理職と相談するところなどの役割分担など、研究主任の負担が大きかったようにも思います。次年度は研究主任会でもう少し予測・検討していきたいです。
- ・学校メールでの連絡と Teams での連絡の両方を見ないといけないことがあり、Teams 上での連絡に一本化していけると便利なのになあと感じました。
- ・特に、気になる点はありませんでした。
- ・オンラインでの協議等になると、十分な議論などができていないように感じます。
- ・成果を踏まえ、学校としてどのようにすればよりよいものとなるのか。そのためには、教職員がカリキュラム・マネジメントへの理解をより一層深め、各教科の利点を活かしながら学校教育目標や目指す生徒の育成に取り組んでいく必要があることを今年度改めて思い知らされました。
- ・課題ではないですが…学プロ～GIGA～PDCA～などまんべんなく各校の取組を共有するのもいいのですが、各校それぞれの”強みの部分”がもっと具体的に共有できると（こんな組織で研究を進めている、こんな研修会を持った、こんな変化があったなど）各校の研究が活性化されるのでは？と感じました。
- ・GIGA の活用に気を取られがちであるが、学力向上の取組など定期的に情報交換できるといいと思いました。

【その他・申し送り等】

- ・Teams は、現在のチームに新しくメンバーを追加していくことで、昨年度の議事録をはじめ資料を見直すことができ、非常に便利であった。来年度以降も上手に活用していければと思う。
- ・今年も1年間ありがとうございました。
- ・中学校の研究主任会に参加させていただき、中学校での取組等に触れる機会になったと同時に、特別支援学校での取組にも参考にさせていただくことができました。ありがとうございました。

【右京支部研究主任会】

1 組織・役員

担当校長	山 崎 直 人	嵯峨中
担当指導主事	島 さやか	総合教育センター
支部幹事	所 香 織	西京極中

①蜂ヶ丘中	宮 嶋 由紀子	⑥梅津中	永 田 慶
②太秦中	山 口 さやか	⑦西院中	西 本 拓 平
③嵯峨中	矢 延 直 樹	⑧宕陰小中	堀 林 杏 奈
④四条中	一 薫 侑 平	⑨双ヶ丘中	野 間 勇 輝
⑤西京極中	所 香 織	⑩京都京北小中	池 内 理 美
		⑪鳴滝総合支援	木 村 和 弘

*支部幹事は、記番号順に輪番制とする。(令和4年度は⑤西京極中学校) 会議校は、駐車が可能な学校を基本として巡回制とするが、令和4年度については幹事校の西京極中学校で行った。

2 研究のテーマ

「伝えあう力の育成 ～深い学びを実現するための効果的な課題の設定～」

3 今年の活動内容

回	月 日 (曜)	内 容	会場校
第1回	5月16日(月)	①今年度の右京支部研究テーマの設定 ②GIGA スクール構想の各校の進捗状況	西京極中学校
第2回	6月27日(月)	①支部授業研修会のもちかたについて ②各校での右京支部研究テーマ達成のための取り組みについて ③情報交流 夏季校内研修・ミライシードの活用・その他	西京極中学校
第3回	9月12日(月)	①支部授業研修会のふり返り 次年度に向けての成果や課題・困り・改善点 ②夏季校内研修会の情報交流	西京極中学校
第4回	10月31日(月)	①各校での困り・課題について 改善案を相談・検討 ②次回の研修会内容検討	西京極中学校
第5回	11月28日(月)	①年間修計画について 各校での年間研修計画の相談・検討 年間研修計画を資料として次年度にむけての意見交流 ②その他情報交流	西京極中学校
第6回	1月23日(月)	①年間研修計画について ②PDCAシートをもとに各校のふり返り	西京極中学校

4 今年度の総括と次年度に向けて

【成 果】

- ・ 今年度の右京支部研究主任の方は、研究主任初めての方が多かった。それをふまえて担当の校長先生や指導主事の先生に指示や助言をいただきながら研修会をすすめるなかで、各校の情報交換や困りの相談・意見交流を活発に行うことができた。
- ・ 研究主任として何をしていくのか、またどんなことを考えておくといいのかなどの相談や意見交流を重ねていくなかで、他校の取り組みやアイデアを自校に取り入れることができたり、今後の参考にしたり、研究主任自らの経験を積むことにもなった。例えば、年間研修計画の内容については、必須となる研修のほかにも、どんな研修が必要であるのかの理解があいまいなこともあった。そのようなときに各校の事例紹介をもとにした意見交流では、他校がどのような研修を取り入れているのか、また実践したほうがよい研修などを伝え合って参考とすることができた。
- ・ 支部授業研修会では、前年度までの流れ・内容を参照にしながらも今年度の右京支部研究テーマを中心にといった授業をすすめるなかで、現状の生徒たちにどんな手立てが必要なのかの議論やコロナ禍においての授業のよりよい持ち方も検討することができた。
- ・ 授業力向上への取り組みのために、まずは研究主任として教科会や周りの教職員の方との連携をとることが必要である。その際の具体的な動き方を各校の実践や研修会の資料をもとに議論して、理解を深めていくことができた。
- ・ 途中からではあったが議事録を作成していくことで、今年度の研修会内容があいまいな記憶では無く記録として次年度にもちこせるような工夫ができた。

【課 題】

- ・ 右京支部研究テーマを議論して設定したことで、軸となる内容が共有できた。ただ、各校の研究テーマとの関わりについては不十分のままですすんでしまったため、学力向上の議論を深めることが難しかった。
- ・ 支部授業研修会については、教科によって実際に教室で参観することができたり、リモート配信であったり、人数制限での参観であったりと様々な形態をとって行った。しかし、リモート参観では協議の時に詳細な様子がわかりづらく十分な議論ができなかったとの声があがっていた。また、研究主任としての具体的な動きの理解が追いついていない状況もあったので、定期的な研究主任会だけでなく連携をとり、解決策を検討する時間が必要だった。
- ・ 今年度は、研究主任としての動きや決まっている内容のすすめかたなどについての意見交流が多く、学力向上や研究テーマに関しての議論を深める機会が少なくなっていた。

【次年度に向けて】

- ・ 研究主任どうしの連携を深めるために、できれば早めに右京支部研究主任 Teamsなどを立ち上げるなどして、情報や資料の共有を図っていく。
- ・ 学力向上のための具体的な取り組み内容を検討する時間をとれるような研修会を計画する。
- ・ 今年度の右京支部研究テーマを次年度にできれば引き継いで、その変化・様子を見取っていく。
- ・ 幹事を含めた数人の研究主任が輪番で運営チームとなり定期的な研究主任会を運営していくと、さまざまなアイデアが生まれたりして、研修会の内容が充実していく。

【西京支部研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	平井 真 広	西陵中
担当指導主事	太田 美佐和	総合教育センター
支部幹事	高 彩 子	洛西中

桂中	梅本 隆 三	松尾中	佐藤 優 哉
桂川中	八田 直 美	檜原中	井上 素 子
大枝中	梶原 寿 彦	洛西中	高 彩 子
西陵中	宅間 光 晴	大原野中	井上 孝一郎
西総合	井関 祐 希		

◎幹事校の順番

H27年度	檜原中	H28年度	桂中	H29年度	大原野中
H30年度	松尾中	R元年度	桂川中	R2年度	大枝中
R3年度	西陵中	R4年度	洛西中		

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成する授業づくり

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～」

3. 今年度の活動内容

	日時	会場校	活動内容
第1回	5月16日(月)	西陵中学校	①各校の方針、研修計画取組の交流 ②支部研究テーマの決定 ③その他情報交換 ④担当指導主事より
第2回	6月27日(月)	西陵中学校	①各校の方針、校内研究授業、研修計画、取組等の交流 ②支部授業研究について ③夏季校内研修予定の交流 ④その他情報交換、研究主任幹事会の報告 ⑤担当指導主事より
第3回	9月12日(月)	西陵中学校	①支部授業研究 ②夏季校内研修の報告 ③その他情報交換 ④担当指導主事より

第4回	10月31日(月)	西陵中学校	① 支部授業研究の振り返り ② 第2回研究主任幹事会の報告 ③ その他情報交換 ④ 担当指導主事より
第5回	11月28日(月)	西陵中学校	① 全国学力状況調査の分析結果の共有 ② その他情報交換 ③ 担当指導主事より
第6回	1月23日(月)	西陵中学校	① 第3回研究主任幹事会の報告 ② 支部の年間反省・次年度に向けて ③ 次年度のテーマ案 ④ その他情報交換 ⑤ 担当指導主事より

4. 今年度の振り返り(成果と課題)

- ・ICT（タブレットの効果的な活用など）についての各校の実践や課題を情報交換し、自校の研究にいかすことができた。
- ・評価について、各校の研修の持ち方や方針などについて情報交換を行うことができた。
- ・研究主任会で出た支部としてあがっている課題を、自校に持ち帰って効果的に伝達することができなかった。
- ・他校の年間計画と実際に行った研修内容を口頭だけでなくデータとして保存し、可視化することができなかった。

5. 次年度に向けて(次年度取り組みたいこと)

- ・支部の中であがった課題について、自校での問題提起の仕方や伝達の方法などの方向性まで話せると良い。
- ・評価について各校で検討したことや実践などの情報交換で終わらず、その後どうかという経過について、また、新たに出てきた課題などについての情報交換も行っていく。
- ・各校の研修の年間計画と実際に行った研修の資料などを可能な限りデータで保存して、お互いの実践を参考にしながら研修の質を高めていけるようにする。

【伏見支部研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	藤谷 徹	神川中
担当指導主事	東谷 祐子	総合教育センター
支部幹事	小林 香陽子	桃山中

1	深草中	須田 修功	7	桃陵中	川合 敦子
2	藤森中	野川 幸恵	8	向島秀蓮小中	越田 友喜
3	桃山中	小林 香陽子	9	向島東中	中島 朋哉
4	伏見中	藤谷 綾香	10	洛水中	齋藤 ゆかり
5	神川中	望月 悟	11	大淀中	高橋 真理子
6	呉竹総合	小澤 牧子	12	桃陽総合	下村 亮子

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～」

3. 今年度 活動内容

日程	研修内容	担当	司会	記録	会場
5月16日(月)	自己紹介、名簿確認 担当主事より・テーマ決定 GIGA スクール構想の進捗状況の共有	担当校長 担当主事 全員	桃山	深草	桃山
6月27日(月)	研究テーマの決定 学習補充の各校取組についての情報交換	全員	伏見	向島東	深草
9月12日(月)	伏見支部授業研に向けて 来年度の学習評価について 夏の研修会の報告今後の研修予定	全員	神川	洛水	藤森
10月27日(木)	支部で研究授業へ参加	全員	各教科	各教科	
10月31日(月)	支部授業研の振り返り ICTを活用した授業や研修について 今後の研修会予定情報交換	全員	呉竹総合	大淀	伏見
11月28日(月)	来年度の支部研について PDCAシート	全員	桃陵	桃陽総合	向島秀蓮
1月23日(月)	年間反省及び次年度に向けて(総括)	全員	向島秀蓮	桃山	桃陵

4. 今年度の反省（成果と課題，来年度に向けて）

【成 果】

- ・今年度は集合での支部授業研究会が久しぶりに実施できた。研究主任会の中で、授業を見るポイントを決め、実際に教室内で教師の生徒への働きかけや生徒の反応などを見ることができて良かった。また、そのポイントにそって研究協議をすすめることもできた。
- ・支部の中で研究発表をしている学校もあり、研究発表を研究主任会の中で聞くことができた。今までは、各学校の取組内容を交流することが多かったが、研究発表を聞かせてもらうことでどのように取り組み、子供たちの姿がどのように変わったのかを具体的に聞くことができて良かった。
- ・新学習指導要領となり2年目の今年度、授業の見直しだけでなく、評価についての研修を各校すすめることができた。特に主体的に学習に取り組む態度の評価について、どのように見とれば良いのか、学校全体・教科間での話し合いを通じて昨年度よりも深めることができた。今年度、教科会を充実させられた学校も多く、意見交流しながらすすめられている。
- ・日々の授業を大切に、授業力の向上を目指した研修を各校取り組むことができた。

【課 題】

- ・ミライシードの活用に関しては、なかなかうまく活用が進んでいない学校もあった。情報交換の中で、ミライシードの効果的な使い方をシェアすることはできたが、それを周知し、使えるようになるまではまだ至っていない。来年度以降は、どのように使うのが良いのかを各校で研修、話し合うなど教職員の意識を変えていかなければならない。
- ・支部授業研究会を今年度は、子供たちに付けさせたい力をつけるために、課題設定にどのように生徒が取り組んでいるのか・どのように教師が働きかけているのかを見ることを軸に授業を参観し、協議しようと周知していたが、全教科徹底できず、その後の協議がうまくいかなかったところもあった。来年度以降は、授業者だけでなく、全員が授業作りへ参加することを提案していきたい。

【来年度に向けて】

- ・課題のところにも書いたが、次年度は伏見支部全体で支部授業研究会の授業作りの段階から参加してもらうことを提案していきたい。そのために夏季休業中に授業者が設定した課題（テーマ・子供たちにどんな力をつけさせる授業をしたか）を各校に連絡し、各校が教科会等でデザインシートのような形で課題に対する案を授業者（授業校）に送り、全員で考える授業をすすめていきたい。また、来年度も集合研修での支部授業研究会を行う予定である。
- ・次年度は、情報交流だけでなく、各校で行われる研究発表などあれば研究主任会の中でも話に取り入れるなど、研究主任全体で話し合いたい内容を考え、すすめていく機会も設けられたらと思う。

令和4年度 第1回 全市研究主任研修会

1. 日時 令和4年4月12日（火） 15:30～17:00

2. 会場 各校オンラインによる実施

3. 内容

(1) 挨拶

京都市立中学校教育研究会研究主任部会 会長 小栗栖中学校 校長 今津 敏一

(2) 講義

「校内研究の推進と充実を図るために」 総合教育センター 主任指導主事 田中 圭

(3) 支部内協議・交流

「今年度の校内研究の構想と校内研究の活性化に向けて」

◆協議の流れについて

①司会は支部幹事が行う。

②支部内研究主任の端末と、支部担当主事の端末を、ブレイクアウトセッションでつなぐ形で実施する。

③事前レポートをもとに、校内研究の構想と校内研究の活性化に向けて、交流をする。

④校内研究を学校全体に広げるために課題となっていること、及び有効な具体策について自由に意見を出し合う。

→ 研究主任の約3割が新任のため、校内研究の活性化などについて、そのヒントを1つでも持ち帰ることができる協議・交流にしていく。

◆協議における留意点

・協議中は司会（支部幹事）の端末のみ音声オンにする。（ハウリングを防ぐため）

・主事は基本的に協議の様子を見守る形で関わる。

※協議時間が限られている＋協議の音声聞き取りにくい可能性があるため。

※協議へのコメントがあれば、5月の支部研究主任会で伝えます。

・協議内容の報告は、時間短縮のため、協議後に支部幹事がチャット機能を用いて入力し、共有する。

(4) まとめ

総合教育センター 首席指導主事 森 茂昭

令和4年度 第2回 全市研究主任研修会

1. 日時 令和4年10月24日(月) 15:30～17:00

2. 会場 各校オンラインによる実施

3. 内容

(1) 挨拶

京都市立中学校教育研究会研究主任部会長 小栗栖中学校 校長 今津 敏一

(2) 講演

「縦と横でつむぐ義務教育カリキュラム」

講師：京都教育大学附属京都小中学校 野ヶ山 康弘

資質・能力を育む認知発達理論を視点とした授業づくりの中で、カリキュラムマネジメントの理解を深める。

(3) グループ協議及び交流

講演を受けて、小中一貫教育や小中連携に関連するカリキュラムマネジメントなど、各校での実践例や、その成果と課題について交流し、研究の更なる活性化につなげる。

協議内容のまとめ：

- ・各校における総合学習の取組に向けて、外部講師として企業や財団と協力している。
- ・関連単元配列表はあるが、時系列で並べられているだけで、教科の関連性がないままになっている。総合的な学習の時間にどのように教科が関連しているのかが要になる。
- ・学年任せではなく学校全体で総合学習を考え、全国学力・学習状況調査の質問紙の結果をもとに振り返り、自ら学ぶ生徒の育成を考えている。
- ・教員個々が教科の先生と連絡を取りながらしなければいけない実態が多い。働き方改革の視点としても学校全体のカリキュラムマネジメントをして、負担を減らしていくことが大切。
- ・カリキュラムマネジメントの視点として「内容でつなぐ、資質・能力でつなぐ、の2通り作成し、形骸化しないような工夫をしている。

(4) 各グループより報告

(5) まとめ

総合教育センター指導室 主任指導主事 田中 圭

令和4年度 第3回 全市研究主任研修会

1. 日時 令和5年1月30日(月) 15:30~17:00

2. 会場 各校オンラインによる実施(15:00入室開始)

3. 内容

(1) 挨拶

京都市立中学校教育研究会研究主任部会会長 小栗栖中学校 校長 今津 敏一

(2) 研修の方向付け

総合教育センター 指導主事 木下 要子

(3) 実践発表① 「校内研究を推進するための工夫・改善」

下京中学校 教諭 和田 正裕

実践発表を通して、学習指導要領の理念を実現するための指導や校内研究の在り方について理解を深め、各校において更なる研究推進に向けた工夫・改善を促す契機とする。

(4) グループ協議及び交流

今年度、各校で取り組んだ事例を共有し、実践発表を参考にしながらグループ内で自校の成果と課題を整理し、研究主任として校内研究を推進することに対する理解を深める。

※協議において『学校教育目標』・『目指す生徒像』に向かう校内研修のPDCAを活用

(5) まとめ

総合教育センター 首席指導主事 森 茂昭

令和4年度 研究主任研修会③

校内研究を推進 するための工夫・改善

下京中学校 和田正裕

下京中学校の概要

校風 志 きらめく
Art Science Toughness

教育目標 人の心を大切に、多様な学びを通して
持続可能な社会の担い手になる

『人の心を大切にする』とは
 ① 自分を大切にすること
 ② 他の人を大切にすること
 ③ 自分の考えを伝え、相手の気持ちを理解すること

『持続可能な社会の担い手の育成』とは…7つの力の習得
 (主体性・自己表現力・創造力・論理的思考力・問題解決力・協働力・忍耐力)

豊かな感性、表現力、 創造力のある生徒	論理的に真理を追究し、 知性あふれる生徒	社会のため、 自身の夢に向かって、 果敢に挑戦できる生徒
Art	Science	Toughness
自己表現力	創造力	論理的思考力
		問題解決力
		協働力
		忍耐力
主体性		

下京中学校が目指す学習

- ・ **創造力**：知識や経験をつなげて考えを創り出す力
- ・ **問題解決力**：課題を見つけて解決する力
- ・ **論理的思考力**：考えや情報を順序立てて、その先を考える力
- ・ **自己表現力**：考えや思いを他者に伝える力
- ・ **協働力**：考えや仲間と意見を交流して自分の考えを広げ深める力
- ・ **忍耐力**：見通しをもって最後までやりぬく力
- ・ **主体性**：自ら取り組む姿勢

下京中学校が目指す学習

★本校で大切にしていること★

『キャリア教育を基盤とする学習』
 [学校・家庭・地域とのつながりの中で、自分らしい生き方を実現し、持続可能な社会の担い手になるために必要な資質・能力を培う学習]

Education "To be"
 (在りたい姿を実現する教育)

学校生活を通して育成する7つの力

GOAL 目指す生徒像 (A・S・T)

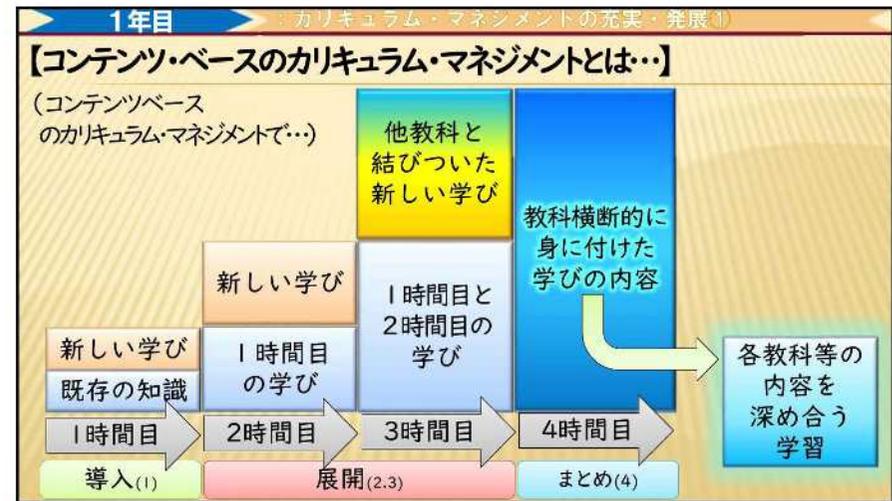
キャリアの発達!!



1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展①

【コンテンツ・ベースのカリキュラム・マネジメントとは…】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月										
国語	見聞																				
社会	1 地域を学ぶ	2 世界の国々	3 緯度と経度	4 国境と領土	5 国境と領土	6 国境と領土	7 世界各地の食生活とその変化	8 世界と生活のかかわり	第1章 アジア	第2章 ヨーロッパ	第3章 アフリカ	第4章 北アメリカ	第5章 南アメリカ	第6章 オセアニア	第1章 人類の始まりと文明	第2章 日本列島の人々と国家の形成	第3章 古代国家の展開	第1章 鎌倉幕府の成立	第2章 室町幕府と下剋上		
数学	1 正の数・負の数	2 正の数・負の数	3 正の数・負の数	1 正の数・負の数	2 正の数・負の数	3 正の数・負の数	1 正の数・負の数	2 正の数・負の数	3 正の数・負の数	1 正の数・負の数	2 正の数・負の数	3 正の数・負の数	1 正の数・負の数	2 正の数・負の数	3 正の数・負の数	1 正の数・負の数	2 正の数・負の数	3 正の数・負の数	1 正の数・負の数	2 正の数・負の数	3 正の数・負の数
理科	1 植物の体のつくりとはたらき	2 植物の体のつくりとはたらき	3 植物の体のつくりとはたらき	1 植物の体のつくりとはたらき	2 植物の体のつくりとはたらき	3 植物の体のつくりとはたらき	1 植物の体のつくりとはたらき	2 植物の体のつくりとはたらき	3 植物の体のつくりとはたらき	1 植物の体のつくりとはたらき	2 植物の体のつくりとはたらき	3 植物の体のつくりとはたらき	1 植物の体のつくりとはたらき	2 植物の体のつくりとはたらき	3 植物の体のつくりとはたらき	1 植物の体のつくりとはたらき	2 植物の体のつくりとはたらき	3 植物の体のつくりとはたらき	1 植物の体のつくりとはたらき	2 植物の体のつくりとはたらき	3 植物の体のつくりとはたらき





1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展②

【コンピテンシー・ベースを意識した教科会】

《「7つの力」育成に向けた教科会の進め方》
 次の点を意識して、教科会を進めて下さい。教科主任の先生にコーディネートをお願いしていますが、複数で学年を受け持つ「クロス持ち」のメリットを最大限に活かして、授業について、たくさん話し合い、資質・能力の育成を目指しましょう！

目指す姿について 毎回の授業について その他 TEAM

→教科会レジュメの共有

→職員会議での「教科研究」報告

1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展②

【コンピテンシーを生徒に意識させる「学びの地図」】

This block shows a student in a white shirt working at a desk with a laptop. To the left is a colorful graphic titled '下京中☆学びの地図' (Shimo-Kyo Junior High School ☆ Learning Map). The map features a ship and various icons representing learning goals and competencies. Below the map are several tables with text and checkboxes, likely related to the learning map's implementation. The top header reads '1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展②'.

1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展②

【コンピテンシーを生徒に意識させる「学びの地図」】

下京中☆学びの地図

①1年間で目指す「私」の姿 名前: _____ 年 組 番 _____

②「今」の自分 自分の得意・不得意は どの教科とつながりが 強いのかを考える。

③「各学期」を終えて 自分の成果と課題などを 振り返る。

④自身の 「7つの力」俯瞰 各学期(3)ごとに、 どの力を獲得できたかを 振り返り、総てつなぐ。

This block features a colorful graphic titled '下京中☆学びの地図'. It includes several numbered sections: ① '1年間で目指す“私”の姿' (My goal for the year), ② '“今”の自分' (Myself now), ③ '“各学期”を終えて' (After each semester), and ④ '自身の“7つの力”俯瞰' (Overview of my 7 powers). The graphic includes icons for '創造力' (Creativity), '主体的' (Independent), '協働' (Collaboration), and 'コミュニケーション' (Communication). There are also fields for '学年' (Year), '学期' (Semester), '得意' (Strength), and '不得意' (Weakness). The top header reads '1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展②'.

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める	互いの考えを比較する	思考して問い続ける
見通しを持つ	多様な情報を収集する	知識・技能を習得する
自分と結び付ける	思考を表現に置き換える	知識・技能を活用する
粘り強く取り組む	多様な手段で説明する	自分の思いや考えと結び付ける
振り返って次へつなげる	先哲の考え方を手掛かりとする	知識や技能を概念化する
	共に考えを創り上げる	自分の考えを形成する
	協働して課題解決する	新たなものを創り上げる

※独立行政法人教職員支援機構より

7つのカピクトグラム一覧表		主体的な学び	対話的な学び	深い学び
カ	ピクトグラム			
主体性 (自ら取り組む姿勢)		興味や関心を高める		自分と結び付ける
忍耐力 (見通しをもって最後までやりぬく力)		見通しを持つ		粘り強く取り組む
協働力 (相対的意見と対話し、自分の考えを広げ深める力)		互いの考えを比較する		多様な手段で説明する
自己表現力 (考えや思いを他者に伝える力)		思考を表現に置き換える		自分の思いや考えと結び付ける
論理的思考力 (考えや情報を順序立てて、その先を考える力)		先哲の考え方を手掛かりとする		知識や技能を概念化する
問題解決力 (課題を見つけて解決する力)		多様な情報を収集する		協働して課題解決する
創造力 (知識・技能を組み合わせ、考えを創り出す力)		共に考えを創り上げる		自分の考えを形成する
				新たなものを創り上げる

1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展③

【資質・能力の育成にスポットを当てた単元デザイン・授業デザインへ…】

単元デザイン

単元名: 物質の性質

単元目標: 物質の性質や状態変化について理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付けること。

単元計画 (全27H)

他教科との内容のつながり

他教科から転用可能な資質・能力

単元の問い

物質とは、どのような性質をもつのだろうか？

学び → 思考・判断・表現 → 学び

知識・技能

深い学びの実現

1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展③

【単元デザイン】

教材名	物質のすがた
単元の目標 (指導要領より)	身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、身の回りの物質とその性質、気体の発生と物質、水溶液、状態変化について理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付けること。
単元を貫く問い (学習課題)	「物質」とは、どのような性質をもつのだろうか？
単元計画 (全27H)	流れ: 導入 (1H) → 展開 (26H) → 総括 (1H)
他教科との内容のつながり	数学科1年「変化と対応」
他教科から転用可能な資質・能力	論理的思考力(数学:課題に対し、筋道を立てて考える力)

【本時のデザイン】

本時の目標	2種類の液体の混合物から物質を分離する方法を、液体の混合物の沸点の違いと関連付けて見だし、表現することができる。【思考・判断・表現】
目標達成で育成される資質・能力	創造力(問題を見だし、自分なりの解釈、解決をする力)
評価方法	ワークシート記述
評価規準	A規準: 2種類の液体の混合物から物質を分離する方法を、「混合物の沸点の違い」と「気体を冷やす」と液体に状態変化することの2要素と関連付けて見だし、表現することができる。 Cへの: 実験における温度変化のグラフに着目させ、混合物の沸点の違いから、手立て、液体の混合物から物質を分離する方法を考えさせる。

振り返りの視点 授業前と後でどのような変化があったか。

1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展③

【資質・能力の育成にスポットを当てた単元デザイン・授業デザインへ…】

【資質・能力育成のポイント】

- 単元を通して、どの力を育成するか明示。
- 授業デザインにおける「終末」を学習のまゝで終わらせず、育成を目指す資質・能力を深めることができるようなものにする。
- 他教科との内容のつながりと併せて、他教科から転用可能な資質・能力は何かを考える。
- 「本時の流れ」作成では、実現したい学びと育成する「7つの力」を関係づけたピクトグラムを用いて、その時間で育成を目指す資質・能力と、そのために必要な学習活動をイメージ化する。

【単元デザイン】

【授業デザイン】

【指導上の留意点】

【振り返りの観点】

1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展③

【資質・能力の育成にスポットを当てた単元デザイン・授業デザインへ…】

【単元デザイン】

【授業デザイン】

【指導上の留意点】

【振り返りの観点】

1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展③

【資質・能力の育成にスポットを当てた校内公開授業の実施】

【校内公開授業】

【振り返りの観点】

1年目 カリキュラム・マネジメントの充実・発展③

【資質・能力の育成にスポットを当てた校内公開授業の実施】

【校内公開授業】

【振り返りの観点】

これまで ▶ 1年目 ▶ 2年目 ▶ 成果と課題

1年目を終えて…

➔ 生徒の資質・能力の育成には「深い学び」が欠かせない。

生徒が身につけた知識・技能をもとに、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら…

- ・相互に関連づけてより深く理解したり…
- ・情報を精査して考えを形成したり…
- ・問題を見いだして解決策を考えたり…
- ・思いや考えを基に創造したり…

➔ 「資質・能力を教科横断的に活用・発揮・深化させる工夫」をさらに進めると同時に、生徒が粘り強く、自己調整を行えるように、さらなる授業改善や学習評価を行う必要がある！

これまで ▶ 1年目 ▶ 2年目 ▶ 成果と課題

今年度の研究主題

資質・能力が駆動するカリキュラム・デザインの構築
 ~“深い学び”と“学びに向かう力”が共鳴する授業と評価の充実~

これまで ▶ 1年目 ▶ 2年目 ▶ 成果と課題

“深い学び”と“学びに向かう力”が共鳴するとは!?

「深い学び」の中で獲得されやすい力
 表現力、自己表現力、論理的思考力、問題解決力、創造力

あらゆる学びの中で獲得される力
 主体性、忍耐力、協働力

授業改善 → 知識及び技能、思考力、判断力、表現力等 → 学びの改善

各観点の評価（生徒の見取りと的確なフィードバック）を通して「授業改善」と「生徒の資質・能力の深化」の両方を目指す
 ➔ 「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」の実現！

これまで ▶ 1年目 ▶ 2年目 ▶ 成果と課題

組織的な取組をさらに目指して…

- お：往還** 【推進の中心となる教員】
学級担任・学習庶務（校務分掌で設置）
- も：網羅** 【推進の中心となる教員】
若手教員・中堅教員
- ろ：論究** 【推進の中心となる教員】
“カリマネ”の核となる総合学習係
- い：育成** 全教職員で行う授業改善

これまで 1年目 2年目 成果と課題

実践①：学級担任・学習庶務を中心に…

お：往還 ~日々の授業と家庭学習を往還する「学習の調整」を促す取組~

も：網羅 ~教育課程を網羅して深めるプロジェクト活動「EICAスクール情報」「がキョウムマネジスト」「書斎新ズリ」~

る：論究 ~教科等の学習を横断して論究する総合的な学習の時間~

い：育成 ~指導と評価の一体化を通して行う「学びに向かう力」の育成~

実践①：往還 ~日々の授業と家庭学習を往還する「学習の調整」を促す取組

きらめき家庭学習～学びのススメ～

【これまで】
・A4用紙1枚程度の量。
・内容は、穴埋め形式で10～20分で終わられるものが多かった。

【今年度の全国学力・学習状況調査】
「授業時間以外に普段(月～金)どれくらい勉強するか」に対して、「30分～1時間」が全国よりも6ポイント高い。

勉強時間	割合
全くしない	5%
30分未満	9%
30分～1時間	17%
1～2時間	34%
2～3時間	25%
3時間以上	10%

勉強時間	割合
全くしない	3%
30分未満	8%
30分～1時間	23%
1～2時間	36%
2～3時間	19%
3時間以上	13%

① 次の問いに答えなさい。
② 右の図は、世界地図から海外航路を引ける英文書(洋書)をみたため、海外貿易を行った船をさがしたものです。この船を何といいますか。
③ 貿易にもなっており、多くの日本人が海外に移住したことで、電報のやりかたや郵便、ラジオなど、わたるるるが海外に広がる地は日本人の船がでました。この船を何といいますか。
④ 徳川家康は、オランダやオーストリアの貿易の発展に、関与の役割を担いました。この役割はどのように果たされたか。次のア～エから1つ選び、記号を答えなさい。
ア ①が イ ②が ウ ③が エ ④が ⑤
⑤ その後、幕府は、鎖国への忠告よりも海外への貿易を推し進めるキリスト教の教を危険視するようになり、キリスト教を禁じました。1624年にスペイン船の来航を禁じ、1639年に日本人の海外航路・船出を禁じたときの幕府はどれか答えなさい。

実践①：往還 ~日々の授業と家庭学習を往還する「学習の調整」を促す取組

きらめき家庭学習～学びのススメ～

【これまで】
・A4用紙1枚程度の量。
・内容は、穴埋め形式で10～20分で終わられるものが多かった。

【今年度の全国学力・学習状況調査】
「授業時間以外に普段(月～金)どれくらい勉強するか」に対して、「30分～1時間」が全国よりも6ポイント高い。

① 次の問いに答えなさい。
② 右の図は、世界地図から海外航路を引ける英文書(洋書)をみたため、海外貿易を行った船をさがしたものです。この船を何といいますか。
③ 貿易にもなっており、多くの日本人が海外に移住したことで、電報のやりかたや郵便、ラジオなど、わたるるるが海外に広がる地は日本人の船がでました。この船を何といいますか。
④ 徳川家康は、オランダやオーストリアの貿易の発展に、関与の役割を担いました。この役割はどのように果たされたか。次のア～エから1つ選び、記号を答えなさい。
ア ①が イ ②が ウ ③が エ ④が ⑤
⑤ その後、幕府は、鎖国への忠告よりも海外への貿易を推し進めるキリスト教の教を危険視するようになり、キリスト教を禁じました。1624年にスペイン船の来航を禁じ、1639年に日本人の海外航路・船出を禁じたときの幕府はどれか答えなさい。

船名	国名	貿易品	貿易品
1	ポルトガル	香料	絹織物
2	オランダ	香料	絹織物
3	スペイン	香料	絹織物
4	オーストリア	香料	絹織物
5	オランダ	香料	絹織物
6	ポルトガル	香料	絹織物

①ふりかえる ②つきつめる ③そなえる ④のりこえる

・実際の社会や社会の中で生きて働く「知識及び技能」
・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
・学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

実践①：往還 ~日々の授業と家庭学習を往還する「学習の調整」を促す取組

きらめき家庭学習～学びのススメ～

・月～木に実施。
・金曜日はデジタルドリルや月～木のきらめき家庭学習を深める取組を行う。
・上部分は「1日の振り返り」、下部分は「学び方」を意識。
①ふりかえる ②つきつめる ③そなえる ④のりこえる

これまで ▶ 1年目 ▶ 2年目 ▶ 成果と課題

実践②：若手教員・中堅教員を中心に…

お：往還 ~日々の授業と家庭学習を往還する「学習の調整」を促す取組~

も：網羅 ~教育課程を網羅して深めるプロジェクト活動「GIGAスクール構想」「カリキュラム・マネジメント」「居場所づくり」~

る：論究 ~教科等の学習を横断して論究する総合的な学習の時間~

い：育成 ~指導と評価の一体化を通して行う「学びに向かう力」の育成~

実践②：網羅 —教育課程を網羅して深めるプロジェクト活動—

3つの側面で生徒の学びを支援する

カリキュラム・マネジメント

居場所づくり

GIGAスクール構想

これまで ▶ 1年目 ▶ 2年目 ▶ 成果と課題

実践③：総合的な学習の時間係を中心に…

お：往還 ~日々の授業と家庭学習を往還する「学習の調整」を促す取組~

も：網羅 ~教育課程を網羅して深めるプロジェクト活動「GIGAスクール構想」「カリキュラム・マネジメント」「居場所づくり」~

る：論究 ~教科等の学習を横断して論究する総合的な学習の時間~

い：育成 ~指導と評価の一体化を通して行う「学びに向かう力」の育成~

実践③：論究 —教科等の学習を横断して論究する総合的な学習の時間—

総合的な学習の時間の充実を目指して…

時間割内の会議で PDCAサイクルの推進 × 全教職員で資質・能力に関する「総合学習で目指す姿」を共有

	1年生 (自分の視点)	2年生 (他者の視点)	3年生 (社会的視点)
主体性	自分の成長のために、課題に興味を持ち進んで探究しようとする姿	自己と身近な他者の未来のために、課題を見つけ探求しようとする姿	社会の中で生きる将来の姿を想像して、自ら課題を立てて探求し自己実現に向かうとする姿
忍耐力	実生活における自らの課題を向き、粘り強く取り組もうとする姿	実生活における課題を、想像力を使い工夫を凝らして乗り越えようとする姿	実生活や実社会における課題を、各教科の学びを生かして工夫を凝らして乗り越えようとする姿
協働性	自分の考えを他者にわかりやすく伝えようとする姿	他者の意見を尊重し、仲間とともに取り組む姿	自他の考えを交えながら、集団や社会に貢献できるよう仲間とともに取り組む姿



これまで 1年目 2年目 成果と課題

実践④：全教職員で行う授業改善

お：往還 ~日々の授業と家庭学習を往還する「学習の調整」を促す取組~

も：網羅 ~教育課程を網羅して深めるプロジェクト活動「EKAスクール推進」「かきこみマネジスト」「暑祭新ズリ」~

る：論究 ~教科等の学習を横断して論究する総合的な学習の時間~

い：育成 ~指導と評価の一体化を通して行う「学びに向かう力」の育成~

実践④：育成 指導と評価の一体化を通して行う「学びに向かう力」の育成

AARサイクルを促進する単元デザイン

Anticipation -見通す- 学びに向かう力・人間性の涵養

Reflection -振り返り- 思考力・判断力・表現力の育成

Action -行動- 知識・技能の定着と活用

導入の工夫
学習課題の問い
自らの考えを深める
視点をもった振り返り
対話による問題解決

実践④：育成 指導と評価の一体化を通して行う「学びに向かう力」の育成

「深い学び」と「学びに向かう力」が共鳴する授業づくり

「ありがたい姿」の確認 ⇒どんな資質・能力を身につけてほしいか？

状況の分析 ⇒深い学びを生むために、生徒の状況を分析 ⇒「つきたい力」はどの程度身に付いているか？

指導内容を検討する ⇒「つきたい力」を育成するために、必要なこと ⇒どのような教材準備や指導が必要か？

アプローチ方法を考える ⇒深い学びを生むための留意点 ⇒学びに向かう力を培うための手立ては？

授業実践 (生徒を見取る) ⇒授業のねらい(目標)は達成状況を見取る ⇒指導と評価の一体化につなげる

授業改善ツール：SMILE

I: つきたい力 (Intelligence)

S: 生徒観 (Students)

M: 教材観 (Materials)

L: 指導観 (Learning)

E: 評価 (Evaluation) [努力を要する生徒への手立て含む]

実践④：育成 指導と評価の一体化を通して行う「学びに向かう力」の育成

「深い学び」と「学びに向かう力」が共鳴する授業づくり

コンテンツベースの単元表 他教科を交えた指導案検討

生徒の状況を付箋で分析 教科会で評価等、さらけ検討

Intelligence: 論理的思考力

Materials

Students

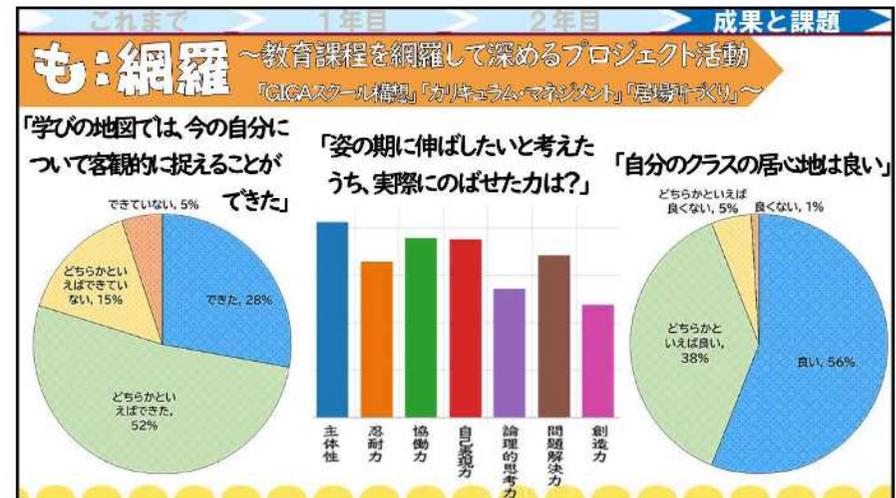
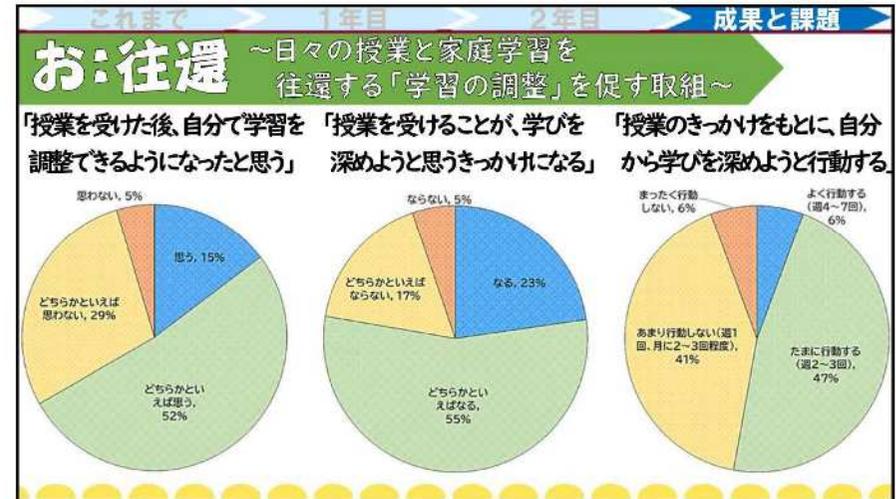
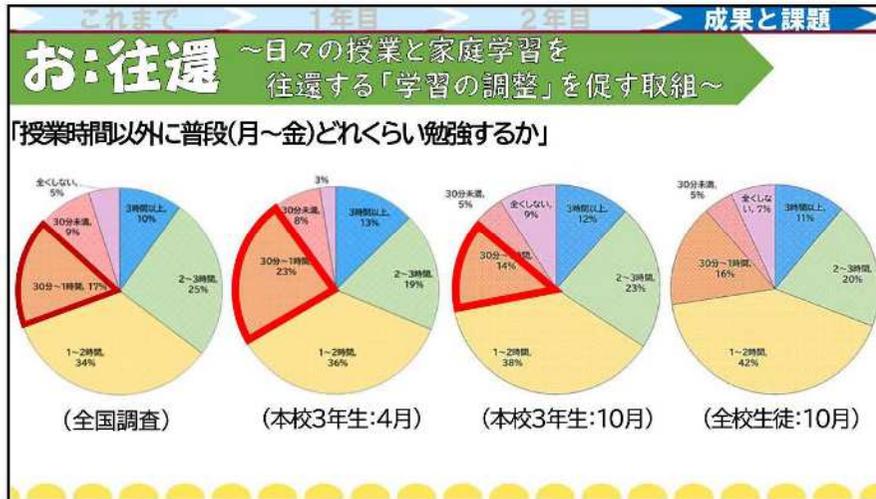
Learning

Evaluation: どんな姿が見られるとよいのか？

地目的単元の目標を多面的に捉えながら、課題を主体的に追究しようとする姿

特に優れている場合は？

授業の資料を用いながら、それぞれの単元を整理して説明できる



これまで 1年目 2年目 成果と課題

ろ: 論究

～教科等の学習を横断して
論究する総合的な学習の時間～

発表者 (B) 班 「水質改善の取り組み」

【見るべき視点】

- ・問いから結論まで内容的に論理的で納得できたか
- ・結論に関して、「〇〇ならどうか?」など、他に気になる点はなかったか

【ナルホ度】 調べてはまる分を塗りつぶす

理由

原稿の修正 2人に関してこそ 2人に留めている
2人だけでは信用度が低い
総稿の趣意「観光客は戻って来ているの理由が面白い。」

これまで 1年目 2年目 成果と課題

い: 育成

～指導と評価の一体化を通して行う
「学びに向かう力」の育成～

「学校の(教科の)授業はわかりやすいですか?」

「学校で(教科の)授業に「やりがい(達成感・充実感)を感じているか?」

年次	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	まったくそう思う
2021年	2%	10%	57%	31%	0%
2022年	0%	6%	51%	42%	0%

年次	どちらかといえば思わない	思わない	思っている	どちらかといえば思っている
2021年	14%	28%	56%	0%
2022年	14%	28%	56%	0%

これまで 1年目 2年目 成果と課題

い: 育成

～指導と評価の一体化を通して行う
「学びに向かう力」の育成～

「学んだ知識を関連付けて、自分の理解や考えを深めたり、創造したりできているか?」

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできているか?」

「学校の授業は楽しいか?」

年次	できていない	どちらかといえばできていない	できている
2021年	3%	17%	27%
2022年	3%	10%	31%

年次	できていない	どちらかといえばできていない	できている
2021年	3%	10%	31%
2022年	3%	10%	31%

年次	どちらかといえば楽しい	楽しい
2021年	9%	35%
2022年	9%	53%

これまで 1年目 2年目 成果と課題

い: 育成

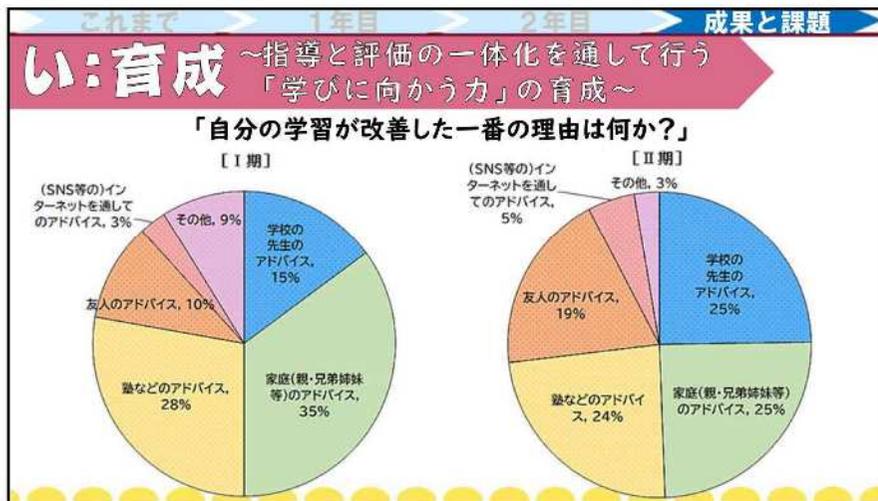
～指導と評価の一体化を通して行う
「学びに向かう力」の育成～

「学ぶことに興味や関心を持ち、自分の学習状況を振り返ったり、粘り強く取り組んだりしているか?」

「先生から、自分の学びをどのように改善すれば良いのか、アドバイスを伝えてもらえるか?」

年次	していない	どちらかといえばしていない	している
2021年	3%	17%	25%
2022年	2%	14%	27%

年次	伝えてもらえない	どちらかといえば伝えてもらえない	伝えてもらえる
2021年	2%	17%	23%
2022年	2%	17%	23%

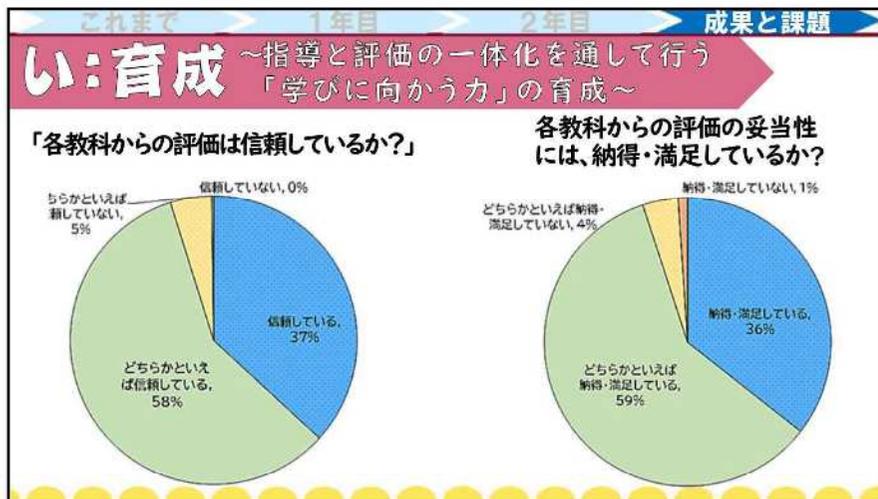


これまで 1年目 2年目 成果と課題

い:育成 ~指導と評価の一体化を通して行う「学びに向かう力」の育成~

「知・技」との相関	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技・家	英語
2022年Ⅰ期	0.519	0.383	0.213	0.686	0.683	0.513	0.632	0.549	0.661
2022年Ⅱ期	0.608	0.461	0.883	0.747	0.852	0.811	0.905	0.686	0.878

「思・判・表」との相関	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技・家	英語
2022年Ⅰ期	0.483	0.375	0.185	0.604	0.701	0.658	0.714	0.564	0.725
2022年Ⅱ期	0.556	0.513	0.862	0.628	0.898	0.703	0.815	0.488	0.939



これまで 1年目 2年目 成果と課題

今後の授業改善において

質問項目	実施月	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
主体性(自ら取り組む姿勢)を身につけている	2021年10月	21.8%	56.7%	19.2%	2.2%
主体性(自ら取り組む姿勢)を身につけている	2022年10月	22.1%	61.1%	14.1%	2.7%
忍耐力(見通しを持って最後までやりぬく力)を身につけている	2021年10月	19.2%	58.3%	19.8%	2.6%
忍耐力(見通しを持って最後までやりぬく力)を身につけている	2022年10月	20.0%	57.6%	19.2%	3.3%
協働力(仲間と意見を交流し、自分の考えを広げ深める力)を身につけている	2021年10月	38.7%	47.7%	12.0%	1.6%
協働力(仲間と意見を交流し、自分の考えを広げ深める力)を身につけている	2022年10月	39.4%	50.9%	8.4%	1.3%
自己表現力(考えや思いを他者に伝える力)を身につけている	2021年10月	24.4%	48.3%	23.4%	3.8%
自己表現力(考えや思いを他者に伝える力)を身につけている	2022年10月	20.8%	56.2%	20.0%	2.9%
論的思考力(考えや情報を順序立てて、その先を考える力)を身につけている	2021年10月	18.5%	53.7%	24.2%	3.6%
論的思考力(考えや情報を順序立てて、その先を考える力)を身につけている	2022年10月	16.8%	58.5%	22.1%	2.5%
問題解決力(課題を見つけて解決する力)を身につけている	2021年10月	23.4%	54.3%	18.8%	3.4%
問題解決力(課題を見つけて解決する力)を身につけている	2022年10月	19.2%	58.7%	19.6%	2.5%
創造力(知識や経験をつなげて考えを創り出す力)を身につけている	2021年10月	26.3%	53.9%	17.2%	2.6%
創造力(知識や経験をつなげて考えを創り出す力)を身につけている	2022年10月	24.6%	57.1%	15.8%	2.5%

これまで		1年目	2年目	成果と課題	
今後の授業改善において					
質問項目	実施月	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
主体性(自ら取り組む姿勢)を身につけている	2021年10月	78.5%		21.4%	
	2022年10月	83.2%		16.8%	
忍耐力(見通しを持って最後までやりぬく力)を身につけている	2021年10月	77.5%		22.4%	
	2022年10月	77.6%		22.5%	
協働力(仲間と意見を交流し、自分の考えを広げ深める力)を身につけている	2021年10月	86.4%		13.6%	
	2022年10月	90.3%		9.7%	
自己表現力(考えや思いを他者に伝える力)を身につけている	2021年10月	72.7%		27.2%	
	2022年10月	77.0%		22.9%	
論的思考力(考えや情報を順序立てて、その先を考える力)を身につけている	2021年10月	72.2%		27.8%	
	2022年10月	75.3%		24.6%	
問題解決力(課題を見つけて解決する力)を身につけている	2021年10月	77.7%		22.2%	
	2022年10月	77.9%		22.1%	
創造力(知識や経験をつなげて考えを創り出す力)を身につけている	2021年10月	80.2%		19.8%	
	2022年10月	81.7%		18.3%	

これまで		1年目	2年目	成果と課題	
今後の授業改善において					
「教科からの評価に納得・満足していない理由を教えてください」より					
<ul style="list-style-type: none"> ・答えが明確に決まっていないもの(例:作者の気持ちになって考えよう等の問題)で評価するのなら、なぜその評価になったか教えてほしい。 ・なぜ、その評価がついたのかが分からない。分からないと何がよくなかったか、今後どのように改善すればいいかが分からない。評価の規準、なぜその評価なのかも教えてほしい。 ・どうすれば評価が上がるのかということアドバイスを伝えてほしい。 ・今までは、振り返り(の評価が)ずっとAだったのに、先生が変わったらBとかB-になり、おかしいと感じる。 					

これまで		1年目	2年目	成果と課題	
今後の授業改善において					
<ul style="list-style-type: none"> ・評価のさらなる信頼性と妥当性の向上において、校内研修等で教科横断的に話し合いを進め、組織的な学習評価の充実につなげたい。 ・今後は、生徒がさらに資質・能力を駆動させられるよう、教科横断的な視点での授業改善を進めると同時に、身につけた資質・能力を活用・深化させる場として、総合的な学習の時間のさらなる充実も目指したい。 					

これまで		1年目	2年目	成果と課題	
「志きらめく」生徒の育成において学校全体で…					
					

京都市立中学校教育研究会「研究主任部会」会則

第1章 総 則

- (名称) 第1条 本部会は『京都市立中学校教育研究会「研究主任部会」』と称する。
- (目的) 第2条 本部会は京都市立中学校における学習指導全般に関する研究・研修を推進し、会員の資質向上を図り、本市教育の発展に寄与することを目的とする。
- (事業) 第3条 本部会は前条の目的を達成するために下記の事業を行う。
- (1) 学習指導及び校内・支部等における研修に関する調査研究。
 - (2) 研究会・支部研修会の開催。
 - (3) 研究物等の作成。
 - (4) その他目的達成のために必要な事業。

第2章 組 織

- (会員) 第4条 本部会は京都市立中学校・総合支援学校中学部の研究主任（研究担当）をもって構成する。ただし、部会長・副部会長についてはこの限りでない。
- (役員) 第5条 本部会に次の役員を置き任期は1年とする。ただし、再選はさまたげない。
- | | | | |
|----------|-----------|----------|------|
| (1) 部会長 | 1名 | (2) 副部会長 | 2～3名 |
| (3) 幹事長 | 1名 | (4) 副幹事長 | 1～2名 |
| (5) 庶務 | 1名 | (6) 会計 | 1名 |
| (7) 支部幹事 | 各支部より1名選出 | | |
- (選出) 第6条 役員選出は次のとおりとする。
- (1) 部会長・副部会長は幹事会において推挙し、総会で承認を得る。
 - (2) 幹事長・副幹事長・庶務・会計は部会長が委嘱し、総会で承認を得る。
- (任務) 第7条 役員の仕事は下記の通りとする。
- (1) 部会長は本部会を代表し、会務を総括する。
 - (2) 副部会長は会長を補佐し、部会長が不在の場合はその仕事を代行する。
 - (3) 幹事長は幹事会の会務を処理する。
 - (4) 副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長が不在の場合はその仕事を代行する。
 - (5) 庶務は本部会の庶務事項を処理する。
 - (6) 会計は会の会計全般を総括する。
 - (7) 支部幹事は支部研修や支部活動の推進にあたる。
- (機関) 第8条 本部会はその目的達成と会務の運営を図るため次の機関を置く。
- | | | |
|--------|---------|------------------|
| (1) 総会 | (2) 幹事会 | (3) 事務局（部会長校に置く） |
|--------|---------|------------------|

第3章 会 計

- (経費) 第9条 本部会の経費は会費・補助金・その他の収入をもってこれにあてる。
- (監査) 第10条 会計監査は総会で選出（1名以上）し、本部会の会計を監査する。
- (年度) 第11条 会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第4章 付 則

- (改正) 第12条 本部会の規約改正は総会の議決による。
- (参与) 第13条 本部会は顧問・参与を置くことができる。

令和4年度 中学校研究主任一覽

支部		学校名	氏名	支部	学校名	氏名	
北・上京支部	1	加茂川中	合田 萌乃	右京支部	45	蜂ヶ岡中	宮嶋由紀子
	2	西賀茂中	有利 晃武		46	太秦中	山口 さやか
	3	旭丘中	牧野 嵩馬		47	嵯峨中	矢延 直樹
	4	衣笠中	佐藤 亮太		48	四条中	一薫 侑平
	5	烏丸中	木村 一平		49	西京極中	所 香織
	6	上京中	大塚 恵理		50	梅津中	永田 慶
	7	嘉楽中	須崎 徳馬		51	西院中	西本 拓平
	8	二条中	北川 晴香		52	宕陰小中	堀林 杏奈
中京支部	9	北野中	土田 眞司	53	双ヶ丘中	野間 勇輝	
	10	朱雀中	合田 智栄	54	京都京北小中	池内 理美	
	11	京都御池中	岡田智代子	55	桂中	梅本 隆三	
	12	中京中	華井 崇博	56	松尾中	佐藤 優哉	
	13	松原中	右田 真衣	57	桂川中	八田 直美	
	14	西ノ京中	加藤 葉	58	檜原中	井上 素子	
	15	西京附属中	田中 正仁	59	大枝中	梶原 寿彦	
	16	洛風中	渡辺千香子	60	洛西中	高 彩子	
下京・南・東山支部	17	下京中	和田 正裕	61	西陵中	宅間 光晴	
	18	洛友中	中町 夕子	62	大原野中	井上孝一郎	
	19	七条中	村井 達也	63	深草中	須田 修功	
	20	八条中	緒方 秀俊	64	藤森中	野川 幸恵	
	21	九条中	西條 貴英	65	桃山中	小林香陽子	
	22	洛南中	福森 徹也	66	伏見中	藤谷 綾香	
	23	凌風小中	池上 暁	67	神川中	望月 悟	
	24	久世中	天良亜由美	68	桃陵中	川合 敦子	
	25	開晴小中	元氏 宏輔	69	向島秀蓮小中	越田 友喜	
	26	東山泉小中	月城 正登	70	向島東中	中島 朋哉	
左京支部	27	岡崎中	西田 拳大	71	洛水中	齋藤 ゆかり	
	28	高野中	高橋 俊行	72	大淀中	高橋真理子	
	29	下鴨中	山崎 遥	73	北総合	水野 雄希	
	30	近衛中	森川 美保	74	東総合	郷 未央	
	31	修学院中	朝倉 將宏	75	鳴滝総合	木村 和弘	
	32	洛北中	加納 由美	76	西総合	井関 祐希	
	33	大原小中	丸田 信宏	77	呉竹総合	小澤 牧子	
	34	花背小中	坂本 旭	78	桃陽総合	下村 亮子	
山科・醍醐支部	35	山科中	稲井 浩子	総合支援			
	36	勸修中	木村 智里				
	37	大宅中	石居知予子				
	38	安祥寺中	八藤 由之				
	39	音羽中	小西 俊伸				
	40	花山中	出野満里菜				
	41	醍醐中	辰巳 昌宏				
	42	春日丘中	岡田 俊哉				
	43	小栗栖中	吉田 幸平				
	44	栗陵中	亀井 隆次				